



コルテス 伊藤の我が音楽人生

第4回 ROCK LIVE 海賊盤

皆さん、こんにちは。今回からは、遂に音楽地獄へとめり込んでいく一青年の青春日記を、お暇な時に読んでいただければ幸いです。もし、自分も同じだと思った方は、ぜひともご連絡ください。

大学受験に失敗し予備校へ通うことになった青年は、高校時代にロック音楽に狂い、毎日、FM 東京、NHK FM、FEN、そして深夜放送に没頭し、お金を貯めては2,000円もするLPレコードを買い、買えないレコードは友達のセレブな同級生（しかも女性）にお借りしてカセットテープに録音させていただき、毎日楽しんでいました。

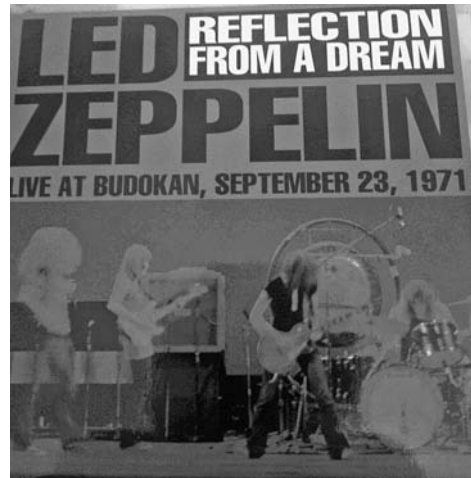
当時ワーナーパイオニアレコードは大盤振る舞いで、日本盤についていたROCK AGE帯を5枚集めるとレコードを1枚もらえるという企画がありまして（しかも好きなレコード）、青年は他には目もくれず一心不乱にレコードを買い続け、何枚かいただいで喜んでおりました。

ところで、当時は大物ミュージシャンの来日が日々激しさを増して行き、空前の外タレラッシュ。BLOOD SWEAT & TEARSを皮切りに、続々と素晴らしいバンドが来日するわけですから、たまりませんね。結構、テレビでも放送したりしてましたから、凄い時代でしたね。そして、遂にあのバンドが来日する訳です。田舎生活の青年は金もないのでチケットを買えるわけでもなく、来日公演のこけら落としは広島でしたから、同日、同時刻に一人部屋で広島に思いを馳せてました。なぜだかひどく落ち込んでいた記憶が。しかし、物語はこれから

です。次の日に一通の封筒が届きました。なんとそのバンドの日本武道館のチケットが届いたのです。それは、レコードに付いていたハガキを送っていた賞品がこのバンドの日本武道館ライブのチケットで、それが当たったのです。奇跡が〜、神様はいると思いました。

そのバンドの名前はLED ZEPPELIN。1971年9月23日、休日ということもあり、開演時間が早く確か2時ということもあり、最高のシチュエーションで田舎者は朝から興奮し前述のセレブな同級生に小型のカセットレコーダーをお

借りし、日本武道館へと向かいました。意気揚々と入口へ。一瞬青ざめました〜手荷物検査、想像していなかったから討ち死に。そして、この出来事が、この悔しさが今後の人生においてものすごく大きな意味合い



を持つことになるのです。

その頃から、海賊盤（BOOTLEGとも言います）が、かなり国内でも発売されるようになりました。西新宿がメッカでしたね。CDなど無い時代で粗末な紙に挟まれて、レコードとして売り出されているわけですからね。そして夢を砕いたのはその音でした。大枚はたいて買った1971年9月23日の音源。詐欺でしたね（笑い）。

PINK FLOYD、SANTANA、ROLLING STONES ETC。しかし、懲りずに今でも買っている私って。やめられませんね。最近ではFM音源などを使ったBOOT CDがありまして、かなりの高音質です。STEELY DANとかCHICAGOとか。

勉強もせずにこんなことばかりやっていたわけですから、当然のこと受験には失敗。そして、それがまたロックなるものに身を捧げることに拍車をかけてしまう結果になり、LIVE JAZZ AUDIOへと変化していく訳です。

続きは次回。19歳から20歳へと青年の音楽漬け官能の日々でお会いしましょう！

（ひたちなか市・伊藤歯科医院

伊藤 輝彦）